



令和 8 年 1 月 27 日

各 位

札幌自動車運輸株式会社
代表取締役社長 高木信幸

弊社における DX 推進の取り組みについて

1. はじめに

弊社では、環境変化に柔軟に対応し、お客様がより満足されるサービスを提供するための成長戦略として、令和 4 年 12 月に DX 戦略を策定いたしました。今回、令和 8 年度以降の DX 推進施策に関する実施計画が決定いたしましたので、ご報告いたします。

2. DX 推進施策の実施計画について

弊社 DX 戦略を達成するため、以下 4 つの施策を計画しております。

- ① データ活用のためのデジタイゼーションの推進 【時期：令和 8 年度～9 年度】
AI-OCR 技術を活用し、手作業で行っている各種データ入力業務をデジタル化することで、業務の効率化を図るとともに、データのデジタル化を促進します。
- ② データ活用によるデジタライゼーションの推進 【時期：令和 8 年度～9 年度】
新貨物トレースシステムの導入により、追跡の正確性とリアルタイム性を向上させることで、提供サービスの品質向上と業務プロセスの効率化を促進します。
- ③ データ活用によるデジタライゼーションの検討 【時期：令和 8 年度～10 年度】
デジタイゼーション推進によりデジタル化したデータを活用し、弊社サービスに新たな価値を生む業務プロセスの改善とサービスの変革に関する検討を行います。
- ④ 新貨物管理システム構築とレガシーマイグレーション 【時期：令和 10 年度以降】
業務プロセス改善とサービスの変革を実現する新しい貨物管理システムを構築し、レガシー化したシステムからの脱却を図ります。

3. 具体的な取り組み

DX 推進施策の実行にあたり、以下の取り組みを始めております。

- ・ DX 推進を目的とする新プロジェクトチームの発足

既存の DX 推進プロジェクトチームについて、実施予定の施策に合わせた再編を行い、施策の具体的な検討を加速いたします。本チームは管理職者、実務担当者、IT 担当者など計 19 名で構成されており、データ活用の促進を目的としたデジタルイノベーション、デジタルイノベーションを重点課題として取り組んでまいります。

4. 達成度の評価指標について

DX 推進施策の実施計画に基づく実績評価を毎月定期的に実施いたします。また、各施策の効果につきましては「実車率」、「稼働率」、「積載率」を評価指標として効果を測定いたします。